

プレスリリース

FoE Japan は、気候変動の影響を受ける南極海の貴重な生態系を将来世代に残すため、人間活動による生態系への負担を軽減させることを目的に、国際 NGO のネットワークである AOA（南極海連盟）と ASOC（南極南大洋連合）に参加しています。

11月1日までオーストラリアのホバートで開催されている南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）の年次会合が開催され、本年、海洋保護区のネットワークが設立されることを目指して議論されていました。大変残念なことに、今回の会合では海洋保護区ネットワーク設置には至らず、結論は来年への持ち越しとなりました。

日本は、南極海の生態系の上位に位置するメロや、そして、南極海生態系を支えるオキアミの大消費国のひとつであり、CCAMLR の主要な利害関係国です。消費国としての責任を果たすため、来年の確実な合意に向けて貢献すべきです。

*** 関連情報：** <http://www.foejapan.org/climate/antarctica/index.html>

以下、AOA プレスリリース：



2012年11月1日

南極海、悲運の日：CCAMLR がすべての海洋保護区指定を持ち越し

AOA(南極海連盟)

[2012年11月1日、ホバート]

南極の海洋生物資源の保存に関する委員会(CCAMLR)は現地時間1日、2週間にわたる討議を終えたが、注目されていた複数の海洋保護区指定案はいずれも採択には至らなかった。これについてAOA(Antarctic Ocean Alliance、南極海連盟)は深い遺憾の意を表し、同委員会が宣言している代表的な海洋保護区網の構築を実行に移すためには努力を倍増する必要があると警告した。

結論は持ち越されたが、CCAMLR はセッション間特別会合を来年7月にドイツで開催することで合意した。そこで懸案の海洋保護区指定候補地に関する科学情報をすべて収集する。結論の持ち越しについては多数の加盟国代表が強い失意を表明した。

「今年の CCAMLR 会議には世界中の人々の目が注がれていました。南極海を確実に保護する施策が合意されるよう注目していたのです。けれども実際に合意されたのは半年後にまた会合を持つことだけでした。」と AOA 代表スティーブ・キャンベルは語った。「CCAMLR 加盟諸国は南極海洋保護区について何も成し遂げることができませんでした。複数の国々が保護への努力を意図的に妨害した結果です。」

キャンベルは米国や EU、フランス、オーストラリア、ニュージーランドなどの代表らはこの 2 週間、保護区指定のため建設的な提案をすべく注力してきたと言及してから、「すべての加盟諸国は今回の責任を取り、南極海に海洋保護区・禁漁区ネットワークを構築するという公約の実現に向け出直すべきです。目標であった今年より遅くはなってしまいますが。」と述べた。

「私は失意とともに憤りを感じています。」と語ったのは ASOC (Antarctic and Southern Ocean Coalition、南極南大洋連合) 専務理事ジム・バーズである。「私が初めて CCAMLR 会議に出席したのは 1980 年、CAMLR 条約(南極の海洋生物資源の保存に関する条約)が話し合われていたときです。以来、この条約の変遷を見守ってきました。CCAMLR は海洋保護の先駆者であると自負してきたはずが、今年は重大な公約を尊重できずじまいとなりました。これに対する責任も、失敗という事実も、すべての加盟国が負うべきものです。」

WWF のポール・ギャンブリンも失意をあらわにした。「南極海に合理的な海洋保護区体制を構築するために、WWF は長年にわたりさまざまな科学研究活動を支援してきました。ロス海や南極大陸東岸海域などの保護区指定の先延ばしを裏付けるような科学データは一切存在しません。来年 7 月の特別会合は、合意形成に至る最後の場とならねばなりません。そして引き続き、その他の保護区指定に関する業務を進めなければなりません。すでに時間の余裕はなくなっています。」

「今年の CCAMLR は南極海保護に従事する組織というより、漁業団体のような行動をしてきました。」と述べたのはグリーンピースのファラ・オバイデュラである。「この失態からわずかでも望みをつなぐものがあるとすれば、海洋保護区指定への努力を倍増することに大多数の加盟国が同意したことです。問題はロシア、中国、ウクライナなどが次回会合に参加し、海洋保護推進に賛同するかどうかです。」

「ロス海と南極東岸海域の保護について、また科学について、失意が再燃した形です。」と、ピュー(Pew)環境グループ上官ジェリー・リープは語った。「南極大陸を取り巻く比類ない、活気に満ちた海洋生物を保全するため、加盟各国がともに努力していくことで合意したのは 2011 年のことでした。けれども代表たちは、監視されていない大規模漁業に門戸を大きく開いたまま、それぞれ帰途に着くわけです。」

24 の国と EU から成る CCAMLR は今回の会合で、南極海でもとくに重要な 2 つの海域での保護区指定について検討してきた。世界で最も無垢の海洋生態系を保つロス海の 160 万平方キロの保護区案と、南極東沿岸の 190 万平方キロの保護区案である。

「AOA および 30 のメンバー組織は今後、CCAMLR が公約を尊重して海洋保護区・禁漁区ネットワーク構築を実現させるよう、活動を倍加していきます。このかけがえのない環境を未来に残すための努力です。」とキャンベルは決意を述べた。

(翻訳:ASOC 沼田 美穂子)